

医動物・種類同定検査結果(平成30年5月～平成31年3月)



医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成30年7月から平成31年3月の種類同定検査件数は、8件で内訳は、昆虫類5件(コウチュウ目2件、ハエ目1件、ハチ目2件)、その他の節足動物3件(ダニ目1件、クモ目2件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
自宅内で1mmほどの虫を多数みかける。 <8月>	 成虫、褐色(頭部、胸部に白い蠟状物質付着)1.5mm	ユウレイヒメマキムシ (コウチュウ目)	成虫・幼虫ともにカビの胞子を食する。野外では樹皮下、枯れ木、キノコなどにみられる。屋内にも生息し、貯蔵食物倉庫や食品、壁紙、畳などカビの生えやすいところに多い。ただし、食品を直接加害することはない。
部屋の天袋に虫がいた。 <10月>	 成虫、茶褐色、4.5mm	ナガヒョウホンムシ (コウチュウ目)	動物標本以外に、煮干、固形飼料、毛織物や米ぬか、玄米やトウモロコシ粉等の穀物破片を食する。
耳の中にコバエが入った。耳内に吸血痕がみられた。 <5月>	 成虫、黒褐色、1.3mm	トリチスイコバエ (ハエ目)	成虫は雌雄ともども様々な野鳥(ヒナ)に寄生、吸血する。幼虫は巣の有機物を摂食する。
台所に多数のアリがみられる。 <10月>	 成虫(働きアリ)、茶褐色、1mm	サクラアリ (ハチ目)	日の当たる乾燥した石下、落葉層、倒木内などに巣を造る。甘味を求めて家屋内に侵入することもある。羽アリの飛出は10～11月である。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>マンション8階のベランダに黒い虫が多数飛来する。 <10月></p>	 <p>成虫(雄)、黒色、2mm</p>	<p>ヤマアリ亜科 (ハチ目)</p>	<p>温帯地方では大型で活発な種類を含み、地上活動性の種も多い。営巣場所は多くの種では地中である。アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。</p>
<p>半年程前から、体中を刺されるようになった。居間で虫を発見し採取した。 <3月></p>	 <p>褐色、0.8mm</p>	<p>イエダニ (ダニ目)</p>	<p>本来の宿主はネズミだが、人も頻繁に吸血する。本種に刺された場合、激しい痒みを伴う小発赤・皮疹を起こす。</p>
<p>自宅庭の散水栓近くにクモがみられた。 <10月></p>	 <p>黒褐色、6mm</p>	<p>ヒメグモ科 (クモ目)</p>	<p>形態的にも生態的にもさまざまなタイプを含む。空間に造網する種が多い。</p>
<p>保育園内のホールにおいてあった児童の布団の付近にクモがみられた。 <10月></p>	 <p>茶褐色、5mm</p>	<p>ヒメグモ科 (クモ目)</p>	

【 微生物検査研究課 医動物担当 】